

博士論文内容の要旨及び博士論文審査結果の要旨

氏名(生年月日)	林 聡太郎	(****年**月**日)
本籍	*****	
学位(専攻分野)	博士(健康科学)	
学位授与番号	甲第123号	
学位授与日付	平成26年3月14日	
学位授与の要件	学位規程第3条第3項該当	
論文題目	The study of the assessment of health promotion for disabled person (障害者の健康づくりのアセスメントに関する研究)	
審査委員	教授 小野寺 昇	教授 宮川 健
	教授 中坊 幸弘	

博士論文内容の要旨

本博士論文は、車椅子駆動を用いた種々の身体活動時の心拍数や酸素摂取量などの生理的指標に基づく車椅子生活者の運動指針の立案作成を目的とする研究であり、英文を用いて作成された。7つの章から成り、次の様な構成であった。第1章序論(研究の背景、研究の倫理性、目的)、第2章(車椅子生活者のためのハンドエルゴメーターの作成に関する研究)、第3章(感覚的な速度における車椅子走行時の運動強度に関する研究)、第4章(種々の障害を有する者の残存部位の機能保持・向上のための身体活動に関する研究)、第5章(総合討論)、第6章(結論)。以上の研究から4つの知見が明らかになった。①新たに作成したハンドエルゴメーターは、上肢を狙ったピュアワークとしての酸素摂取量の評価が可能であること。②対象者の感覚的な速度を用いた車いす走行は、車いす生活者の運動習慣の獲得に寄与する可能性を有すること。③スポーツ吹き矢は呼吸機能の保持・向上に寄与すること。④視覚障害者のスポーツの継続は、空間認知などの向上に好影響を及ぼすこと。これらの新しい知見から、車椅子生活者における種々の身体活動時の運動指針の作成が可能であることを明らかにした。

博士論文審査結果の要旨

本論文は、車椅子駆動を用いた種々の身体活動時の心拍数や酸素摂取量などの生理的指標に基づく車椅子生活者の運動指針の立案作成を目的とする研究であり、健康科学専攻の学位論文に相応しい内容の論文である。8つの研究(1つの測定機材の開発と7つの実験)から構成され、目的を達成するための構成として適切であった。研究を進めるための新しい測定機材を立案し、その機材を用いた仮説の設定など研究の目的が明確であった。車椅子駆動を用いたピュアワークとしての酸素摂取量の定量を可能にした。またスポーツ吹き矢のエネルギー代謝をヒューマンカロリーメータから評価した。分析方法、統計の処理など妥当な方法論であった。実験から導き出された結果は、客観的な数値あるいは、映像として図表化され、先行研究に基づく考察を統計的な有意性から展開した。特に障害者の身体活動を残存機能の保持・向上・他機能の

代償および健康の保持・増進から考察を展開した。障害者における身体活動時の運動指針は、残存機能が適切に評価されれば作成可能であることを客観的に示した論文である。